

小生が属する大東亜慰霊協の正会員団体である(NPO 法人)JYMA 日本青年遺骨収集団主催の戦没者慰霊祭及び活動報告会に機会があつて参加した。彼等の想いの一端に触発され、本一文を認める。



JYMA
日本青年遺骨収集団

(同会の HP から転載)

1 JYMA 日本青年遺骨収集団の概要

(1) 沿革等

東京都認定の特定非営利活動法人であり、簡単に JYMA と呼称する場合もある。JYMA とは「Japan-Youth-Memorial-Association」の頭文字である。

1967 年(昭和 42 年)6 月 戦争の傷跡を今も残す外地に赴き、戦争というものを肌で体験し真の友好を生むと同時に現在の日本を知ろうとする有志学生によって「学生慰霊団」として発足した。

1971 年(昭和 46 年)5 月 1 日: 「日本青年遺骨収集団」へと改称し、対象を広く若人にも拡大した。

2002 年(平成 14 年)9 月 3 日: 東京都知事より特定非営利活動法人認定の認証を得て、特定非営利活動法人ジェイワイエムエイと改組して現在に至る。

(2) 活動実績等 <http://jyma.org/>、冊子「日本青年旅券」

○遺骨収容活動

厚労省(推進協会)の遺骨収集への団員派遣

470 回の遺骨収集派遣に参加し、延べ 1 6 万 6 千柱の本国帰還に寄与した。

北はシベリア等、南洋群島、東南アジア諸国、そして沖縄や硫黄島

○国内外の残存遺骨調査派遣や自主派遣

ガダルカナル島の丸山道自主派遣活動、南洋群島、沖縄

○慰霊巡拝や慰霊碑保全

○その他の活動

学園祭等での活動展示会

募金周知活動

フィリピン・ダバオでの貧困家庭就学支援

(3) 組織特性

理事会の下に本部事務局が置かれ、更に実働組織としての学生組織がある。学生による自主的・主体的活動を尊重し、その学生組織を支えるべく、OB や OG が集う。学生代表の元に各部を置いて種々の活動を行っている。

2 活動報告会

(1) 講演 厚労省主任遺骨鑑定専門員 林敦子氏

「日米戦没者遺骨の収集・鑑定・返還方法の相違」

日米の文化の差というよりも終戦後における遺骨収集や戦争等に関する認識の相違

が、組織的・科学的・体系的な米国に後れを取っているのだろうと感じた。

(2) 活動報告等

令和3年度実施した沖縄や硫黄島の遺骨収集派遣活動の状況や参加学生の所見、テニアン島の調査派遣の実施状況等を阪大、国学院大、拓大の学生等が発表した。その他、勉強会や合宿、募金活動の報告の後、学生組織の交代が行われ団旗が新学生代表に引き継がれた。

コロナ禍でもあり、参加出来ない者の為にオンライン視聴が可能であり、オンラインによる活動報告やメッセージ等もあったが、若い者達なればこそある程度は使いつこなしていたと思われる。他の団体ではそうもいかないかも知れないが…

3 若干の所見

(1) 遺骨収集を国の責任と認めて、所謂推進法を策定して重点期間を定めているにも拘らず、遅々として進展しない状況では、沖縄や硫黄島のみならず、海外戦没者のうち収容可能と見積もられる約60万柱の戦没者の遺骨収集は達成不能である。抜本的な対策を早急に講じる必要がある。

(2) 「今時の若い者は云々」との老人の繰り返言が繰り返される昨今ではあるが、彼らの様な若い者が存在するということは日本もまだまだ救われるとの期待を抱かせる。彼らが日本再生の国民運動の中核になって貰えると信じたい。

(3) JYMAも含めた慰霊諸団体が抱える問題は、一つには財政問題であり、二つには会員の減少や募集の困難性である。諸団体は色々な手をうってはいるが、それにも限界があり、手詰まり感がある。

この諸課題に正面から取り組むのが大東愛慰霊協であるのは重々承知であるのだが…

(4) コロナ禍で色々な活動が制約を受ける中、彼等は創意工夫して、諸活動を実施している。その体験は、彼らの人生を豊かにしてくれる筈だ。OBやOGが遺骨収集派遣にも同行して、ノウハウの引継ぎがあり、世代間の交流が行われる。有益なシステムだ。

(了)